

平成 29 年 9 月 26 日 (火曜日)

台風18号

被災地の大分視察

足立敏之
参院議員
地元建設業界を激励

自民党の足立敏之参院議員は23日、17日の台風18号上陸に伴う豪雨で被災した大分県の佐伯市と津久見市を視察した。大分県建設業協会の佐伯、津久見両支部

の幹部や川野幸男津久見市長から被害の状況や災害時対応について説明を受け、道路や河川の被害箇所を回った足立氏は、今後の災害復旧では「原形復旧ではな

く改良復旧が必要」と指摘。地元の建設業界を「地域住民の期待にしっかり応えて頑張ってもらいたい」と激励した。

足立氏は佐伯市で河川が氾濫した弥生地区を視察。大分建協佐伯支部の渡辺隆

次支部長らから、道路が冠水し車で移動できない会員企業の社員が歩いて災害対応へ向かったことなどの説明を受けた。

津久見市では川野幸男市長や同建協津久見支部の神田敏和支部長らから被災状況や災害対応などについて聞き、県道の損壊箇所や斜面の崩壊箇所、河川の氾濫で浸水した地区などを視察した。

川野市長は「建設業協会に総動員で道路啓開やがれき処理に当たってもらって

いる」、神田支部長は「会員企業は休みなしで二次被害が発生しないよう一生懸命頑張っている」とそれぞれ話し、財政面も含めた災害復旧への国や県の支援を求めた。

視察を終えた足立氏は「河川の流下能力を超えるものすごい雨だったと実感した。壊れた箇所を元に戻すだけでは再度あふれてしまう。原形復旧ではなく、プラスの改良復旧をちゃんとやらないといけないと強く感じた」と述べた。

「現地に入って建設業のすごい頑張りを感じた」とも話し、建設業界に対して「『困った時は建設業』ということをみなさんに実感してもらえよう、しっかりとした対応をお願いしたい」と要請した。



川が氾濫した被災地を視察する足立氏（中央）



被災状況の説明を聞く足立氏（右端）